

テトロドトキシン：フグによる生合成とその機能（総説）

松村健道

日本獣医師会雑誌, 51, 231-235, 1998

フグ毒の食物連鎖説の矛盾点を明らかにするとともに、最近のテトロドトキシンに関する新知見を紹介し、

フグ自身によるテトロドトキシンの生合成および繁殖期のフェロモンとしての機能について概説した。

Production of tetrodotoxin in puffer fish embryos

Kendo Matsumura

Environ.Toxicol.Pharmac.6,217-219,1998

従来、フグの保有するテトロドトキシンは、餌とともに体内に取り込まれ蓄積するとされていた（食物連鎖説）。この研究では、フグ自身がテトロドトキシンを生合成していることを証明する。そのために、クサフグの卵を人工授精し、発生中のテトロドトキシン濃度を測定

した。その結果、胎児中のテトロドトキシン濃度は、孵化まで時間とともに増加した。このことは、増加したトキシンがフグ自身の生産物であることを示す。